

平成 29 年度派遣留学報告書

留学先：ウラジオストク国立経済大学

留学期間：8 月 29 日～12 月 29 日

新潟国際情報大学
国際文化学科
学籍番号：21016116
宮原百花

目次

1	留学先及び留学期間	3
2	留学先概要	3
3	留学の目的	3
4	留学のスケジュールと詳細	4
5	留学に対する自己評価	5
6	反省・課題	5
	謝辞	5

付録

	各教科の詳細、所感	6
--	-----------	---

1. 留学先、及び留学期間

留学先：ウラジオストク国立経済大学

留学期間：8月29日～12月27日

※授業の開始は9月5日から。帰国は12月28日。

2. 留学先概要

大学について

ウラジオストク国立経済大学は、1967年に開学したウラジオストクの中心部に位置する大学である。8つの学部を擁し、学生数は1万5,000人ほどである。学内にはスポーツ施設や学生用の食堂やカフェなども多くある。大学寮の収容人数は1200人で、外国人留学生だけではなく、ロシア人の学生も学生寮で生活している。大学や寮の出入り口は常に警備員が駐在しており、安全な環境での学習が可能である。

ウラジオストク国立経済大学は、ウラジオストクにおいて最高水準の教育機関の一つであり、いくつもの賞を受けている。

大学での授業について

毎週午後の授業では、ロシアの美術や音楽、歴史や地理など言語以外での知識を得ることができる。

留学中の授業は韓国の留学生と合同で行われる。授業が始まる前に組み分けのためのテストを行い、その結果によって2グループに組み分けをされる。1クラスの人数は10人前後。

3. 留学の目的

ロシアへの留学の目的は、ロシア本国で生のロシア語に触れながらロシア語を学び、ロシアの文化に触れロシアへの興味を高め、より理解を深めることである。現在多くの場面で使われる英語に比べ、ロシア語は使う機会が極端に少なく、また生のロシア語を聞いたりできる機会も少ない。そのため4か月もの間ロシア本国で毎日生のロシア語に触れることができる機会はとても貴重である。そのまたとないチャンスをものにし、ロシア語の技術を飛躍的に向上させることを目的とした。

4. 留学のスケジュールと履修コースの詳細

以下から研修の内容を記述する。

毎週の授業のスケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 限目	文法	会話練習	聞きとり	読み	聞き取り
2 限目	会話表現	読み	会話表現	文法	文法
3 限目	ロシア美術	ロシア音楽	ロシア史	ロシア地理	

※2 限目と 3 限目の間に 1 時間程度の昼休みが挟まれる。

1 限目、2 限目はロシア語を身に着ける授業が中心であり、文法や聞き取りなどがある。3 限目の授業はロシアの文化や風土などを学ぶものである。3 限目の授業には韓国の留学生は参加せず、日本の留学生のみの参加となる。

各教科の概要

・文法

主に主格、前置格、生格など格による形容詞や名詞の変化など、ロシア語の文法の練習をする科目。

・会話表現

教科書を用いて日常で使う会話の表現を練習する科目。

・会話練習

例文などを見ながら自分たちで会話文を考え、実際にその会話文を読み会話能力の向上を目指す科目。

・読み

教科書を用い、長文読解や音読などを行う科目。数テーマが終わるごとに、文章中に出た単語の書き取りテストがある。

・聞き取り

主にプリントを使って、聞き取った文章を書き取るなどしてロシア語を聞き取る能力を高める科目。

・ロシア美術

ロシアの民族衣装や民芸品、文化などを学ぶ科目。資料を見ながら実際に絵を描いたりもする。

・ロシア音楽

ロシアの有名な民謡や民族楽器について学ぶ科目。

・ロシア史

ロシアの歴史の概要を学ぶ科目。専門用語も多く出るので復習が肝心。

・ロシア地理

ロシアの主要都市や気候、地形、極東地方に住む生物などロシアの自然について学ぶ科目。

5. 当初の目的及び目標への到達度に対する自己評価、留学によって得られたこと

留学の目的の到達度について。留学中は日本にいた時よりも意欲的にロシア語の学習に取り組めた。その日の授業の復習もし、よりロシア語と文化や歴史への理解を深められた。しかし、もっとやれることがあったのではないかと思うことも多々ある。留学中の学習状況に満足し、さらに意識して予習などもやっていたら良かったのかもしれない。

ただ、今回の留学でロシアに対してもっていた「怖い国」という意識はほとんど払拭されたように感じる。実際に現地を訪れて、人や街、自然に触れることでロシアに対して新しい見方ができたことは。これは国際社会を生きるにあたって大きな糧となったと言えるだろう。

6. 反省・課題

一つ反省点を挙げるとすれば、間違えることを恐れて授業中に積極的に発言ができなかったことである。ロシア本国でロシア語を学べる滅多にない機会に、意識的にロシア語を多く話すことを躊躇ってしまったことを非常に悔やんでいる。文法などが合っていても間違っている、実際に喋らなければ言葉は身につかない。今後の課題として、失敗を恐れずに意識してロシア語を話すことを心掛けたい。

謝辞

留学先で4か月間ロシア語の指導をしてくださったスベテラナ先生をはじめとしたウラジオストク国立経済大学の先生方、また、1年後期よりロシア語の指導をしてくださった中谷先生、プラーソル先生、神長先生に心より感謝申し上げます。そして、新潟国際情報大学からの奨学金をいただいたことでロシアへの留学が実現したことにも深く感謝いたします。

付録

各教科の詳細、所感

授業は毎朝午前一コマは一時間半であり、3限の授業以外は基本同じ教室で行われる。

・文法

文法の授業ではまず初めに基本的な疑問詞や、動詞、主格の変化を学習した。前置格での変化を学んだが、最初のころの授業ということもあってか、変化を覚えたりどういった場面で使うか、など理解するのが難しかった。

10月に入ってからは対格の学習をした。対格は男性名詞女性名詞、またそれぞれ人か物か、複数か単数かで変化が複雑であり、前置格同様に変化を覚えて正しく使うことに苦勞をした。

11月には与格と生格の学習があった。与格は上記の二つに比べ変化が覚えやすく、変化の形を覚えること自体はあまり苦勞がなかった。

造格は帰国の一週間前からほんの少しの授業でしか学ぶことができなかった。しかし、造格の表現は留学中非常に多く見かけたので、留学へ行く際は、前もって造格を学習しておくのが良いだろう。

また、主格や対格などは基本的に数字で分けられている。1が主格、2が生格、3が与格、4が対格で5が造格、そして6が前置格である。最初のころはこの番号と格の組み合わせを覚えることに苦勞した。しかし造格を除いた4つの格はほぼ1か月かけて丁寧に指導されたため、基本表現はしっかり身に着けることができたように感じる。

・会話表現

会話表現は最初は挨拶や自己紹介から始まる。そのほかにも買い物時の注文のしかたなどのロシアの生活で使える表現を多く学ぶことができる。他の科目にも言えることだが、文法で習っていない表現なども出てくることもあるので

・会話練習

教科書やプリントを用いて日常で使える会話の表現の学習が主だった。例文を基に留学生自身で会話文を考えたり、パワーポイントで授業内で出た表現等を使って自己紹介などをし、ロシア語を話すことに主軸を置く。

・読み

日本で学習していた時とは比にならない量の文章を読むことに加えて、和訳なども当然なため、留学初期の頃で難しかった科目の一つである。授業中に文章の音読があるが、ロシア語の文章をいかに美しく読むかも重要であるため、音読をする際はアクセントなどに気を付けることが必須だった。また、授業内で文章中に出てくる単語がいくつか取り上げられそれが数テーマごとに単語テストとして出るため、復習が欠かせない科目でもある。後半には単語を使って例文を作る課題がある。

・聞き取り

生のロシア語を聞く機会が少ないために、この授業も難しいものだった。最初は子音の聞き比べや、単語を聞き取って書き取るものだが、少しずつ聞き取る内容は複雑になり、読まれる速度も速くなる。ロシア語は単語のスペルと発音が異なることがあるため、単語を知っておかなくては正確に聞き取ることができない。単語を知っていても実際にどう読むのかも知らなくてはならない。アクセントなどを辞書で調べて、実際に自分で発音したり辞書などの音声機能で正しい発音を聞くことで、授業でよりロシア語を聞き分けることができる。

・ロシア美術

ロシアの民族衣装やロシアの民芸品であるホフロマ塗りやグジュリなどについて学習し、実際に描くことが主な内容である。外部の人を招いての授業もある。

・ロシア音楽

ロシアの民族楽器を勉強し、ロシア民謡に合わせて実際に民族楽器の一つであるローシュキを叩いたりもする。歌はカチューシャなどのロシアの民謡を歌ったり、子供向けの簡単な歌なども歌った。

・ロシア史

紀元前のロシア（ルーシ）からソ連の解体までの歴史の概要を学習した。

歴史では日常会話で使わないような学術的な単語も多く出るため、内容を理解するためにその日に出た単語を辞書で調べることが必須である。1回の内容が濃く、書き取る量も多いが、ロシアという国を理解するためにも大切な科目である。

・ロシア地理

最初はロシア連邦の国旗や国歌、人口、民族など国の概要を学んだ。数字を覚えることも多かった。留学後半の授業ではウラジオストクのある極東地方についての授業で、川や火山などの地形やユニークな動物など、興味深いことを数多く学ぶことができた。